

2025年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏名
人間健康学部	准教授	吉村道孝
最終学歴	学位	専門分野
慶應義塾大学大学院医学研究科（博士課程）	博士（医学）	臨床心理学

I 教育活動

○理念・目標・方針・計画（方法）

【理念】

建学の精神「真に信頼して事を任せうる人格の育成」にあるように、教養に加えて人間としての人格の成熟を目指す。

【目標】

ヘルスケアの視点から、社会をより良くするための知への探究と社会的弱者の視点など多様性を理解できる人格形成の成熟を目指す。

【方針】

人や社会を理解するためには、基礎的な知識の習得を重視する。また物事の知識だけでなく、歴史や背景、関係する人々の思いなども含めて、何を考え・行動するのかという講義を展開する。

【計画（方法）】

これまで発表された研究成果や実験結果を多く扱い、ボトルネックとなっている社会事象に対して積極的にアプローチをおこない、多様な見方・考え方ができるよう進める。

○担当科目（前期・後期）

（前期）

公認心理師の職責、人間学概論、臨床心理学概論、心理学概論、心理実習
基礎演習Ⅰ、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ

（後期）

心理学的支援法、社会・集団・家族心理学、神経・生理心理学、心理演習
基礎演習Ⅱ、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ

○教育方法の実践

講義においては、知識の提示に加えて、当該内容の臨床場面における適用可能性を中心に扱った。とりわけ、視聴覚教材の活用および臨床上の重要点の整理など、教科書からは把握しにくい実践知の提示に重点を置いた。全講義でコメント欄を設置し、学生からの疑問・質問には必ず応答した。演習科目では、学生の発言と討議を授業運営に組み込み、他者の見解に接する機会と自身の考えを言語化する機会を拡充した。さらに、振り返りの時間を十分に確保し、自己理解の促進を図った。

○作成した教科書・教材

全講義で、講義内容に整合した資料を作成・整備した。テキスト資料と講義スライドを基盤とし、関連ニュースや日常的題材を適宜取り入れ、写真・動画等の視聴覚教材を併用して理解を深めやすい構成とした。公認心理師カリキュラムに関しては、到達目標および国家試験の範囲を明確に意識

し、当該範囲を網羅したうえで学習効果が高まるよう内容を編成した。

○自己評価

本年度は、講義内容を臨床場面の実践へ接続することを意識し、知識の整理と適用の視点を併せて提示した。視聴覚教材および事例提示を取り入れ、理解を支える構成とした。さらに、コメント欄での質疑応答と演習での討議を通じて、学生の能動的参加を促進した点は評価できる。他方、受講者間の理解度差に対するきめ細かな対応、ならびに授業内の相互作用を一層引き出す仕組みには課題が残る。今後は学習状況の把握方法を改善し、学生の反応を踏まえた授業運営により内容の質を高める。

II 研究活動

○研究課題

メンタルヘルスの予防・回復に資する学術研究および開発

○目標・計画

【目標】

睡眠や生体リズムに関する研究テーマを通して、人々のメンタルヘルスの向上に貢献する。特に、先端技術や解析技術を用いて、これまで明らかにできなかった革新的な研究成果を目指す。

【計画】

メンタルヘルスや睡眠・生体リズムに関する複数の研究課題を同時に進行する。他施設の研究者との共同研究も多いため、研究計画、倫理審査、調査・実験、学会発表、論文執筆を遂行する。同時に、適宜競争的資金の申請をおこなう。

○2018年4月から2026年3月の研究業績（特許等を含む）

（学術論文）国内雑誌

- ・ 吉村道孝, 三島和夫. 行動嗜癖と睡眠障害. 医師会雑誌. 第149巻第6号; 1030, 2020.
- ・ 北沢桃子, 吉村道孝, 村田まゆ, 藤本友香, 一言英文, 三村将, 坪田一男, 岸本泰士郎. 日本の大学生を対象としたインターネット使用と精神症状との関連. 精神神経学雑誌. 121巻8号; 593-601, 2019.
- ・ 西村英伍, 元村祐貴, 勝沼るり, 吉村道孝, 三島和夫, 尾方義人. 機械学習を用いた動画解析による生体情報の自動追跡技術: 瞼裂幅計測に用いた一例. 日本生理人類学会誌. 24(1);35-45, 2019

（学術論文）国際雑誌

- ・ Takako Nagata, Kiko Shiga, Takanori Fujita, Momoko Kitazawa, Michitaka Yoshimura. Changes in Subjective Sleep, Physical Condition, and Mental Health during the COVID-19 Pandemic: A Nationwide Survey in Japan. Journal of Psychological Research 5(3) 11-25 2023 July.
- ・ Shiga K, Izumi K, Minato K, Yoshimura M, Kitazawa M, Hanashiro S, Cortright K, Momota Y, Mimura M, Kishimoto T. Association of Work Environment with Stress and Depression among Japanese Workers. WORK: A Journal of Prevention, Assessment & Rehabilitation. 2022;72(4):1321-1335.
- ・ Shiga K, Izumi K, Minato K, Sugio T, Yoshimura M, Kitazawa M, Hanashiro S, Cortright K,

- Kurokawa S, Momota Y, Sado M, Maeno T, Takebayashi T, Mimura M, Kishimoto T. Subjective well-being and month-long LF/HF ratio among deskworkers. *PLoS One*. 2021 Sep 7;16(9):e0257062.
- Shiga K, Izumi K, Minato K, Yoshimura M, Kitazawa M, Hanashiro S, Cortright K, Momota Y, Mimura M, Kishimoto T. Association of Work Environment with Stress and Depression among Japanese Workers. *WORK: A Journal of Prevention, Assessment & Rehabilitation*. 2021
 - Makiuchi MR, Warnita T, Inoue N, Shinoda K, Yoshimura M, Kitazawa M, Funaki K, Eguchi Y, Kishimoto T. Speech Paralinguistic Approach for Detecting Dementia Using Gated Convolutional Neural Network. *IEICE Translations*. 2021 Nov E104-D,11.
 - Yamamoto M, Takamiya A, Sawada K, Yoshimura M, Kitazawa M, Liang KC, Fujita T, Mimura M, Kishimoto T. Using speech recognition technology to investigate the association between timing-related speech features and depression severity. *PLoS One*. 2020; 11,15(9):e0238726.
 - Kishimoto T, Takamiya A, Liang KC, Funaki K, Fujita T, Kitazawa M, Yoshimura M, Tazawa Y, Horigome T, Eguchi Y, Kikuchi T, Tomita M, Bun S, Murakami J, Sumali B, Warnita T, Kishi A, Yotsui M, Toyoshiba H, Mitsukura Y, Shinoda K, Sakakibara Y, Mimura M; PROMPT collaborators. The project for objective measures using computational psychiatry technology (PROMPT): Rationale, design, and methodology. *Contemp Clin Trials Commun*. 2020;18,19,100649.
 - Sumali B, Mitsukura Y, Liang K.-C, Yoshimura M, Kitazawa M, Takamiya A, Fujita T, Mimura M, Kishimoto T. Speech Quality Feature Analysis for Classification of Depression and Dementia Patients. *Sensors* 2020, 20, 3599.
 - Yoshimura M, Kitamura S, Eto N, Hida A, Katsunuma R, Ayabe N, Motomura Nishiwaki Y, Negishi K, Tsubota K, Mishima K. Relationship between Indoor Daytime Light Exposure and Circadian Phase Response under Laboratory Free-Living Conditions. *Biological Rhythm Research*. 2020.
 - Horigome T, Sumali B, Kitazawa M, Yoshimura M, Liang KC, Tazawa Y, Fujita T, Mimura M, Kishimoto T. Evaluating the severity of depressive symptoms using upper body motion captured by RGB-depth sensors and machine learning in a clinical interview setting: A preliminary study. *Compr Psychiatry*. 2020; 98:152169.
 - Tazawa Y, Liang KC, Yoshimura M, Kitazawa M, Kaise Y, Takamiya A, Kishi A, Horigome T, Mitsukura Y, Mimura M, Kishimoto T. Evaluating depression with multimodal wristband-type wearable device: screening and assessing patient severity utilizing machine-learning. *Heliyon*. 2020;4,6(2):e03274.
 - Kitazawa M, Yoshimura M, Hitokoto H, Sato-Fujimoto Y, Murata M, Negishi K, Mimura M, Tsubota K, Kishimoto T. Survey of the Effects of Internet Usage on the Happiness of Japanese University Students. *Health and Quality of Life Outcomes*. 2019;17;151.
 - Tazawa Y, Wada M, Mitsukura Y, Takamiya A, Kitazawa M, Yoshimura M, Mimura M, Kishimoto T. Actigraphy for Evaluation of Mood Disorders: A Systematic Review and Meta-analysis. *Journal of Affective Disorders*. 2019;15,253,257-269.

- ・ 綾部直子, 吉村道孝, 法月桃子. 養育者による子どもの生活習慣への関与が子どもの睡眠に及ぼす影響. 第 34 回日本睡眠環境学会学術大会. 東京, 2025.9.12-13.
- ・ 江藤太亮, 李相逸, 吉村道孝, 榎本みのり, 樋口重和, 北村真吾. 大学生における日本語版光曝露行動評価尺度 (LEBA: Light Exposure Behaviour Assessment) の妥当性検証. 第 32 回日本時間生物学会学術大会. 京都, 2025.10.4-5.
- ・ 吉村道孝, 津端うらら, 北沢桃子, 志賀希子. 暗室および明室環境が自律神経活動や心理状態に及ぼす影響. 日本睡眠学会第 49 回定期学術集会. 広島, 2025.6.28-29.
- ・ 吉村道孝, 北沢桃子, 江藤太亮, 北村真吾. スマホ型ヘッドマウントディスプレイを用いた朝の光曝露が睡眠に与える影響. 日本生理人類学会第 86 回定期学術集会. 大阪, 2025.5.9-11.
- ・ 吉村道孝, 北沢桃子, 志賀希子, 江藤太亮, 北村真吾. スマートフォンの使用を寝る前に制限すると、睡眠がよくなる!?. 第 31 回日本未病学会学術総会. 石川. 2024.11.2-3.
- ・ 吉村道孝, 北沢桃子, 志賀希子, 江藤太亮, 北村真吾. 就寝前の発光型電子機器使用の制限は、休日の就床時刻を前進させる. 日本睡眠学会第 48 回定期学術集会. 神奈川. 2024.7.18-19.
- ・ 志賀希子, 吉村道孝, 北沢桃子. 簡易睡眠脳波計を用いた客観的睡眠評価、および主観的な睡眠評価とウェルビーイングの関連. 日本睡眠学会第 48 回定期学術集会. 神奈川. 2024.7.18-19.
- ・ 北沢桃子, 吉村道孝, 志賀希子, 江藤太亮, 北村真吾. 就寝前の発光型電子機器使用の制限が、気分や社会的ジェットラグに与える影響. 第 21 回日本うつ病学会総会. 大阪. 2024.7.12-13.
- ・ 志賀希子, 吉村道孝, 北沢桃子. 精神疾患の罹患歴がない健常者を対象とした睡眠状態誤認と、うつ症状・ストレス・不安症状の関連. 第 21 回日本うつ病学会総会. 大阪. 2024.7.12-13.
- ・ 吉村道孝, 北沢桃子, 志賀希子, 江藤太亮, 北村真吾. 就寝前の電子機器使用制限の効果と個人特性の関連. 日本生理人類学会第 85 回大会. 東京. 2024.6.14-16.
- ・ 吉村道孝, 江口洋子, 北沢桃子, 志賀希子, 綾部直子. 光過敏性とソーシャルジェットラグの探索的調査. 日本睡眠学会第 45 回定期学術集会・第 30 回日本時間生物学会学術大会合同大会. 神奈川, 2023.9.15-17
- ・ 志賀希子, 吉村道孝, 北沢桃子. 簡易睡眠脳波計を用いた在宅での睡眠構造と well-being の関連. 日本睡眠学会第 45 回定期学術集会・第 30 回日本時間生物学会学術大会合同大会. 神奈川, 2023.9.15-17
- ・ 吉村道孝, 北沢桃子, 志賀希子, 綾部直子, 江口洋子. 若年から高齢者までを対象とした主観的認知機能に関連する要因の検討. 第 20 回日本うつ学会総会. 宮城, 2023.7.21-22.
- ・ 志賀希子, 吉村道孝, 北沢桃子, 綾部直子, 江口洋子. 若年から高齢者までを対象とした死の不安・恐怖とうつ症状の関連の検討. 第 20 回日本うつ学会総会. 宮城, 2023.7.21-22
- ・ 吉村道孝, 江口洋子. 「若年から高齢者までを対象とした睡眠と関連する心理・社会的要因のウェブ調査」. 学術変革領域「生涯学」第 2 回領域会議, 京都, 2023.3.18.
- ・ 吉村道孝, 越川陽介, 江口洋子, 北沢桃子, 花城清香, 村田まゆ, 志賀希子, 藤田卓仙. 大学生に対する COVID-19 ワクチン接種に関するリスク・コミュニケーション実践がワクチン接種意思に与える影響. 第 29 回日本未病学会学術総会, 千葉, 2022.11.12-13.
- ・ 志賀希子, 吉村道孝, 北沢桃子, 永田貴子, 藤田卓仙. 新型コロナワクチンに対する理解度と主観的心身状態の関連. 第 19 回日本うつ学会総会. 大分 (ハイブリッド方式開催), 2022.7.14-15.
- ・ 吉村道孝, 北沢桃子, 志賀希子, 永田貴子, 藤田卓仙. COVID-19 流行下におけるワクチンに対する信頼度と睡眠の関連. 日本睡眠学会第 47 回定期学術集会. 京都 (ハイブリッド方式開催), 2022.6.30-7.1
- ・ 藤田卓仙, 志賀希子, 吉村道孝, 北沢桃子. 新型コロナウイルス感染症に関連する携帯電話関連

- 技術を用いた対策についての全国調査。日本公衆衛生学会第 80 回大会。東京, 2021.12.21.
- ・ 志賀希子, 吉村道孝, 北沢桃子, 藤田卓仙. 新型コロナワクチン接種意思に関連する要因の全国調査。日本公衆衛生学会第 80 回大会。東京, 2021.12.21.
 - ・ 吉村道孝, 越川陽介, 江口洋子, 藤田卓仙, 花城清香, 北沢桃子, 村田まゆ, 志賀希子. 大学生に対する新型コロナワクチン接種に関するリスク・コミュニケーション教育の試み。第 1 回日本公認心理師学会学術集会。沖縄, 2021.12.12.
 - ・ 吉村道孝, 藤田卓仙, 花城清香, 北沢桃子, 江口洋子, 越川陽介, 村田まゆ. 新型コロナワクチン接種の正しい理解のためのコミュニケーションハンドブック」日本語翻訳版の作成。第 1 回日本公認心理師学会学術集会。沖縄, 2021.12.12.
 - ・ 吉村道孝. 志賀希子. 永田貴子. 北沢桃子. 藤田卓仙. コロナ禍における主観的健康観に関する全国調査。第 28 回日本未病学会学術総会。大阪, 2021.11.20.
 - ・ 吉村道孝, 北沢桃子, 藤田卓仙. 新型コロナウィルス感染症がソーシャルメディア上の睡眠関連キーワードに与える影響。日本睡眠学会第 46 回定期学術集会, 福岡, 2021.9.23-24.
 - ・ 志賀希子, 北沢桃子, 藤田卓仙, 吉村道孝. コロナ禍における日本人の幸福感日本心理学会。第 85 回日本心理学会, WEB, 2021.9.1-9.8.
 - ・ 吉村道孝, 北沢桃子. 新型コロナウィルス感染症拡大前の 2019 年とコロナ禍の 2020 年のソーシャルメディア上の希死念慮に関する話題頻度について。第 18 回日本うつ病学会, 神奈川, 2021.7.8-10.
 - ・ 志賀希子, 泉啓介, 湊和修, 吉村道孝, 北沢桃子, 花城清香, 前野隆司, 佐渡充洋, 武林亨, 三村將, 岸本泰士郎. テレワーク実施頻度とストレス、well-being、抑うつ、パフォーマンスの関連。第 94 回日本産業衛生学会, 長野, 2021.5.18-21.
 - ・ 志賀希子, 吉村道孝, 北沢桃子, 泉啓介, 湊和修, 三村將, 岸本泰士郎. デスクワーク労働者における職場環境や生活習慣とうつ症状の関連。第 17 回日本うつ病学会, 福岡, 2021.1.28-29.
 - ・ 越川陽介, 吉村道孝, 江口洋子, 貝瀬有里子, 花城清香, 村田まゆ, 北沢桃子. メンタルヘルス部会における未病の定義と行動指針に関する一考察。第 27 回日本未病学会学術総会, 東京, 2020.10.31-11.1.
 - ・ 村田まゆ, 吉村道孝, 北沢桃子, 貝瀬有里子, 花城清香, 市丸佳世, 江口洋子, 越川陽介. 我が国における高齢者の神経心理アセスメントツールの使用頻度と教育課程の調査。第 27 回日本未病学会学術総会, 東京, 2020.10.31-11.1.
 - ・ 志賀希子, 泉啓介, 湊和修, 吉村道孝, 北沢桃子, 三村將, 岸本泰士郎. テレワークの実施の有無とストレス、well-being、抑うつ、パフォーマンスの関連。第 36 回日本ストレス学会。2020.10.24-25.
 - ・ 志賀希子, 泉啓介, 湊和修, 吉村道孝, 北沢桃子, 三村將, 岸本泰士郎. デスクワーク労働者のパフォーマンスに関連する要因の検討。日本心理学会第 84 回大会, 東京 (web 開催), 2020.9.8-11.2.
 - ・ 杉尾樹, 泉啓介, 湊和修, 志賀希子, 花城清香, Kelley Cortright, 宇佐美陽子, 北沢桃子, 吉村道孝, 藤田卓仙, 前野隆司, 佐渡充洋, 武林亨, 三村將, 岸本泰士郎. 生体信号データによるストレス・well-being の機械学習予測モデルの構築の検討。第 93 回日本産業衛生学会, 北海道 (web 開催), 2020.6.12-28.
 - ・ 泉啓介, 志賀希子, 湊和修, 花城清香, Kelley Cortright, 宇佐美陽子, 北沢桃子, 吉村道孝, 杉尾樹, 藤田卓仙, 前野隆司, 佐渡充洋, 武林亨, 三村將, 岸本泰士郎. デスクワークに従事している労働者のストレス・well-being と生体 sensing data との関連。第 93 回日本産業衛生学会, 北海道 (web 開催), 2020.6.12-28.

- ・ 志賀希子, 泉啓介, 湊和修, 花城清香, Kelley Cortright, 宇佐美陽子, 北沢桃子, 吉村道孝, 杉尾樹, 藤田卓仙, 前野隆司, 佐渡充洋, 武林亨, 三村將, 岸本泰士郎. デスクワークに従事している労働者のストレス・well-being と職場環境の関連. 第 93 回日本産業衛生学会, 北海道 (web 開催), 2020.6.12-28.
- ・ 吉村道孝, 北沢桃子, Brian Sumali, Kuo-Ching Liang, 岸本泰士郎. スマートフォンを用いた睡眠計測の妥当性評価. 第 26 回日本未病システム学会学術総会, 名古屋, 2019.11.16-17.
- ・ 志賀希子, 泉啓介, 湊和修, 花城清香, Kelley Cortright, 北沢桃子, 藤田卓仙, 吉村道孝, 杉尾樹, 三村將, 岸本泰士郎. デスクワークが多い業務に従事している労働者のストレス・well-being と心理社会的な職場環境に関する考察. 第 35 回日本ストレス学会学術総会, 福岡, 2019.10.26-27.
- ・ 鶴嶋史哉, 菊地俊暁, 吉村道孝, Liang Kuo-Ching, 北沢桃子, 三村將, 岸本泰士郎. 深層学習を用いた表情データによるうつ症状の重症度判定の試み. 第 16 回日本うつ病学会総会, 徳島, 2019.7.5-6.
- ・ 北沢桃子, 山田千晶, 吉村道孝, 川島素子, 井上佐智子, 三村將, 坪田一男, 根岸一乃. 岸本泰士郎. ドライアイ患者におけるうつ症状および不安症状に関する観察研究. 第 16 回日本うつ病学会総会, 徳島, 2019.7.5-6.
- ・ 吉村道孝, 北沢桃子, Brian Sumali, 田澤雄基, 貝瀬有里子, 三村將, 岸本泰士郎. ウェアラブル活動量計を用いた睡眠リズムとうつ症状との関連. 第 16 回日本うつ病学会総会, 徳島, 2019.7.5-6.
- ・ 吉村道孝, 北沢桃子, 江口洋子, 三村將, 岸本泰士郎. 高齢者における睡眠一覚醒リズム (The Sleep Regularity Index : SRI) と睡眠、精神症状及び認知機能との関係. 日本睡眠学会第 44 回定期学術集会, 名古屋, 2019.6.27-28.
- ・ 吉村道孝, 北沢桃子, 岸本泰士郎. ウェアラブル活動量計を用いた睡眠リズムと認知症との関連. 日本生理人類学会第 79 回大会, 東京, 2019.6.1-2.

(学会発表) シンポジウム (国内招待発表)

- ・ 吉村道孝. デジタル時代における光との適切な付き合い方. シンポジウム 3 デジタルツールと子どものメンタルヘルス, 第 32 回日本未病学会学術総会, 福岡, 2025 年 11 月 15 日.
- ・ 吉村道孝. ロボットは人を癒せるのか? ヒトとロボットのメンタルヘルスの効果を探る. 第 29 回日本未病学会学術総会, 千葉, 2022 年 11 月 12 日-13 日.
- ・ 吉村道孝. 大学教育改革フォーラム in 東海 2022 学生支援分科会「発達障害傾向のある学生への睡眠・覚醒リズム支援」2022 年 3 月 5 日.

(学会発表) (国際学会)

- ・ Naoko Ayabe, Momoko Norizuki, and Michitaka Yoshimura. Effects of the Sleep Hygiene and Nurturing Attitude of Parents on the Sleep Habits, Emotions, and Behaviors of their Children. Asian Society of Sleep Medicine Interim Meeting 2024 in Tokyo, October 18-19, 2024.
- ・ Naoko Ayabe, Michitaka Yoshimura. Effect of Parents ' Sleep Habits and Their Children ' s Behavioral Characteristics on Parents ' Mental Health: Focusing on Differences by Child Developmental Stage. EABCT 2024, Serbia, September 4-7, 2024.
- ・ Shiga K, Izumi K, Minato K, Sugio T, Yoshimura M, Kitazawa M, Hanashiro S, Cortright K, Kurokawa S, Momota Y, Sado M, Maeno T, Takebayashi T, Mimura M, Kishimoto T. Subjective Well-being and the LF/HF ratio among deskworkers. The 60th Annual

Convention of the Taiwan Psychological Association, Taiwan, October 16-17, 2021.

- Kitazawa M, Yoshimura M, Shiga K, Nagata T, Hanashiro S, Fujita T. Japanese National Survey on Subjective Health during COVID-19. The 60th Annual Convention of the Taiwan Psychological Association, Taiwan, October 16-17, 2021.
- Yoshimura M, Shiga K, Kitazawa M, Hanashiro S, Nagata T, Fujita T. Nationwide survey of COVID-19 vaccination factors in Japan. The 60th Annual Convention of the Taiwan Psychological Association, Taiwan, October 16-17, 2021.
- Katsunuma R, Motomura Y, Yoshimura M, Moriguchi Y, Mishima K. Neural Associations of Moral Judgments Affected by Sleep Deprivation. Neuroscience and Society 2019, Melbourne, December 3-4, 2019.

(特許)

- 発明等の名称：疾患予測装置、予測モデル生成装置および疾患予測用プログラム 出願人：東京都港区 (899000079) 学校法人慶應義塾 発明者：岸本泰士郎、梁國經、吉村道孝、北沢桃子、藤田卓仙、三村將 出願記事：特願 2019-212031 (2019/11/25)
- うつ状態を推定する装置、方法及びそのためのプログラム 出願人：東京都港区 (899000079) 学校法人慶應義塾 発明者：岸本泰士郎、田澤雄基、梁國經、藤田卓仙、吉村道孝、北沢桃子、三村將 出願番号：特願 2018-234966(2018/12/14) 国際出願番号：PCT/JP2019/48904(2019/12/13)

(その他)

- 吉村道孝，花城清香，北沢桃子，越川陽介，藤田卓仙. 新型コロナワクチンコミュニケーションハンドブック日本語翻訳版の作成（ブリストル大学と共同）. 2021

(メディア)

- 吉村道孝. テレビ番組監修. 日本人の3割しか知らないこと くりいむしちゅーのハナタカ!優越館. 2020.08.13

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

- 令和2年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）. 若手研究. 「VRを使ったフラッシュ光照射による睡眠一覚醒リズムの改善効果」. 令和2年度～令和5年度. 研究代表者 吉村道孝.
- 令和5年度第12回人文・社会科学系学術研究助成（公益財団法人大幸財団）. 「ヘッドセットを用いた光照射による概日リズムの位相前進効果に関するランダム化比較試験」. 令和5年11月1日～令和7年3月31日. 研究代表者 吉村道孝.

○所属学会

日本睡眠学会／日本うつ病学会／日本未病学会／日本生理人類学会／日本公認心理師協会／

○自己評価

研究成果を学会発表として複数に公表し、社会への発信および還元に努めている。加えて、国際学術誌の査読ならびに学会運営等の活動を積極的に担い、学術コミュニティの発展に貢献している。

Ⅲ 大学運営

○目標・計画

【目標】

大学行事、人間健康学部や研究活動委員会へ貢献できるように責務を果たす。

【計画】

大学行事、人間健康学部や研究活動委員会の行動指針、活動内容を把握し、積極的に参加する。特に公認心理師カリキュラムの適正化や学生へのメンタルヘルスについて専門性を生かして貢献する。

○学内委員等

人間健康学部執行部、研究活動委員会、研究倫理委員会

○自己評価

それぞれの委員会において、委員として貢献することができた。また複数回のオープンキャンパスの模擬授業や、教育懇談会での講演、高大連携授業などにおいて貢献ができた。

IV 社会貢献

○目標・計画

【目標】

睡眠医療・心理学実践を社会に還元する。

【計画】

睡眠衛生・精神疾患の支援に対する普及活動を積極的におこなう。学外機関等からの講演要請に応える。学会活動の一環として専門家向け、一般向けの研修会に積極的にコミットする。

○学会活動等

日本未病学会 評議員、日本未病学会メンタルヘルス部会 副代表

○地域連携・社会貢献等

(講演)

名古屋銀行ハートフルプラザ／江南市立北部中学校／清須市立西枇杷島中学校／扶桑町立扶桑東小学校／啓明学館高校／飛鳥未来きずな高校名古屋キャンパス

(探求授業による協力)

東邦高校／愛知県立松蔭高校／愛知教育大学附属岡崎中学校

(主催研修会)

発達障害の二次障害とその支援— 医療・福祉・教育現場での実践知を学ぶ—日本未病学会メンタルヘルス部会，オンライン，2025年11月30日。

○自己評価

本年度は、講演等の依頼を複数受任し、睡眠衛生ならびにメンタルヘルスに関する情報提供を行った。地域の小学生から高齢者まで幅広い層を対象とし、公衆衛生の観点から一定の寄与があった。研修会は継続的に実施しており、本年度も公認心理師・臨床心理士等を中心にメンタルヘルス関連の研修を実施した。さらに、専門領域に関する相談・照会、会議出席等の依頼を個人および各種団体から受け、助言等を通じて社会への還元を行った。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

研究成果を学生への教育に対する還元はもちろんのこと、高等教育機関として地域・社会への還元を積極的におこない、社会の発展に寄与する。

VI 総括

本年度は、公認心理師カリキュラムを含む担当授業において、視聴覚教材の活用と演習の設計により、知識の理解と臨床的適用を接続する指導を実施した。研究活動では、学会等での研究発表を継続し、睡眠・生体リズムとメンタルヘルス領域の知見の拡充に貢献した。さらに、学部執行部ならびに研究倫理委員会における学内業務を担い、講演・研修会等を通じて地域および学術コミュニティへの還元を行った。今後は、学習状況の把握と授業内相互作用の向上を課題として改善を進め、研究成果の深化と発信を継続する。

以 上